

国際文化学科

「グローバルスタディーズ」「多文化共生」「表象文化」の分野

ベトナムの今～人々の暮らしと法～

教授 岩瀬 真央美
(専門分野：ベトナム法・国際経済法)

ベトナム社会で暮らす人々の日常生活を取り上げて、ベトナムでの現地調査において経験したベトナムの食文化や日常生活の中に存在するルール（法）を紹介するとともに、グローバル化の中で変化するベトナム社会や人々の暮らし、そして社会のルールである法の在り方について考えます。

なぜ世界は仲良くできないのか？

教授 土佐 弘之
(専門分野：国際関係論・政治社会学)

ロシアのウクライナ侵攻、イスラエル／パレスチナ紛争など、国際政治において目に付くのは暴力的な衝突です。なぜ、こうした暴力的事態が起きるのか、について、国際政治学・平和学等の知見を使いながら、みなさんと考えていければ幸いです。

英国の女性参政権運動と日本女性への影響

教授 富田 裕子
(専門分野：日英比較女性史・英国文化と社会)

戦後1945年に日本では女性に参政権が与えられましたが、現在までに3人の女性首相を生んだ英国の場合はどうだったのでしょうか。同国における女性参政権運動発生の歴史的背景、活動内容とその成果を解説し、日本女性に及ぼした影響も考察します。

漢字文化圏の似て非なる社会と文化

教授 陳 來幸
(専門分野：アジア社会経済史・華僑華人研究)

儒教や仏教の影響を受け、箸を使う朝鮮半島、中国、日本、ベトナムはかつては漢字文化圏でもありました。今や異なる政治体制を敷きながらも相互に移民を送り出し、貿易も盛んです。まずはこれら近隣諸国とどのように付き合うのがよいのかを考えてみましょう。

パイナップルと「日本人」

教授 八尾 祥平
(専門分野：社会学・移民研究)

パイナップル産業はハワイから台湾、沖縄へと移転し、その担い手は日本・沖縄・台湾の移民でした。高校の「歴史総合」の重要テーマである近代化・大衆化・グローバル化と私たちのふだんの暮らしがどのように結び付いているのかをパイナップル産業の歴史から解説します。

パインの戦争協力

教授 八尾 祥平
(専門分野：社会学・移民研究)

社会の大衆化と総力戦体制との結び付きは高校で学ぶ「歴史総合」の重要テーマの一つになっています。パイン缶詰を通して、私たちがあまり意識しなくても、総力戦体制が私たちのふだんの暮らしと戦争を強く結び付けていることを明らかにします。

Department of Global Studies

国際文化学科

「グローバルスタディーズ」「多文化共生」「表象文化」の分野

東南アジアの多民族社会

准教授 工藤 裕子

(専門分野：東南アジア史・インドネシア地域研究)

東南アジアのほとんどの国は、多民族国家です。言語や習慣、宗教が異なる人々が一つの同じ国の国民としてどのように日常を過ごし、共生しているのか、またその課題について、日本と比較しながら考えてみましょう。

アフリカポピュラー 音楽の世界

准教授 松平 勇二

(専門分野：文化人類学・アフリカ地域研究)

アフリカでは音楽が社会を動かしてきた。日常生活から戦争まで、あらゆる場面で音楽が力を発揮する。アフリカではなぜ音楽がそのような力をもちうるのか。各地のポピュラー音楽の事例を紹介するとともに、アフリカ音楽の体験を通して考えてみよう。

途上国支援の理想と現実

准教授 松平 勇二

(専門分野：文化人類学・アフリカ地域研究)

SDGsの目標の1に「貧困をなくそう」がある。しかし実際に貧困にあえぐ個々人の援助には多くの困難を伴う。私自身がジンバブエ共和国でおこなった支援活動、その課題と成果について紹介する。そして途上国支援や貧困解決のむずかしさについて議論しよう。

外国人居留地って どんな場所？

講師 郭 まいか

(専門分野：中国近代史・租界史)

近代の中国には租界という外国人居留地が存在しました。中国は、租界を通じ、西洋の文化や思想を取り込むことで近代化を進めましたが、租界は同時に、中国の主権を侵害するものでもありました。このような外国人居留地の在り方について、考えてみましょう。

ブラジル日本人移民の 歴史と在日ブラジル人

講師 長村 裕佳子

(専門分野：社会学・移民史)

なぜ日本から遠く離れたブラジルからこれほど多くの労働者が働きに来ているのでしょうか。百年前のブラジルへの日本人移民の歴史から、ブラジル人の来日を紐解いてみましょう。日本とブラジルの交流、日本人移民が海外で継承してきた文化・経験を紹介します。

Department of Global Studies